

葉山町ごみ処理基本計画(案)」に対する意見

葉山町××××××××××
×× ××

日々排出されるごみの処理は、町民の日常生活の利便性に極めて関係が深く、かつ、町民の協力に負うところの多い行政サービスです。即ち、町民の理解と協力なしに円滑に行うことのできない行政分野といってもいいでしょう。

特に葉山町においては、「ゼロ・ウェイスト政策」という、町民自身の手によるごみの減量と分別を柱とした政策を採用しようとしているがゆえに、町民の全面的な理解と協力が不可欠です。

現在、当町においては、町当局のごみ処理政策を支持する町民と、異議を唱える町民とが併存しています。その是非はともあれ、今回提案されたごみ処理計画が上述の通り極めて町民の力に依存した内容となっているだけに、町民と町当局との全面的な信頼関係は何よりも大切です。

孫子の代まで住みやすい葉山のまちを築くため、選挙時のマニフェストに拘泥せず、真に町民の立場に立って検討され、全町民が心を一つにして葉山のごみ問題に取り組めるような計画に仕上げられますようお願い申し上げます。

なお、以下に私の考えを申し述べますが、私自身検討に当たっては次の2つの視点に立って点検しました。ごみ処理の原点を見失わないために、大変重要な視点と考えていますので、貴町で検討される際には是非留意していただきたく申し添えます。

- ① 生活環境の保全と公衆衛生の向上という廃棄物処理の原点を、何よりも基本に置いて策定すること
- ② 町民が進んで取り組めるよう、町民の十分な支持と協力が得られる計画内容とすること、

1 計画(案)の1ページに、「循環型社会の実現に向けた持続可能なごみ処理を町自ら選択する決意を示しました」とあります。このことについては全く正しいと私も考え、このように宣言された町の姿勢に心から安堵しました。

これに対して、47ページ「4 施設整備に関する計画」において、
「焼却処理量の減少に伴い、現行の2系列運転から1系列運転への切り替えによる維持管理費抑制の可能性を探るほか、費用対効果を踏まえた民間委託への切り替え並びに他団体との協力体制の可能性も視野に入れ、適正処理の長期的確保を進めていきます。」

と述べています。

通常、民間委託への切り替えとは即ち民間ごみ処理業者に委託することであり、このこと自体が既に持続不能の事態に陥った結果と理解されます。

この論理矛盾を解決するには、「決意」を取り消すか。民間委託への切り替えを止めて、他団体との協力体制(まさに広域処理そのものですが)か自己処理のいずれかに方針転換するしかないと考えます。

廃棄物処理法や環境省のごみ処理基本計画策定指針の趣旨から、「決意」を取り消してはならないと考えます。

民間委託への切り替えを削除し、老朽化した現焼却炉の使用期限を可能な限り短期に設定し、当該計画の中で、ごみ処理施設の整備確保を含めた、町として責任ある処理体制づくりの方針を明確かつ具体的に打ち出すよう強く求めます。

ごみ処理体制の整備には時間がかかります。今計画の中で、明確に方向を打ち出しておかなければ、何もできないまま 10 年が過ぎてしまうでしょう。

2 環境省のごみ処理基本計画策定指針(環廃対発 0619001 号平成 20 年 6 月 19 日廃棄物対策課長通知)の趣旨に沿った計画となるよう点検検討をお願いします。

(1) 同指針「1 環境保全の重要性」では、

「現在に至るまで廃棄物処理法の目的は、第 1 条の目的規定にあるように「生活環境の保全及び公衆衛生の向上」である。そして、これらを基盤として初めて循環型社会が存立しうるものである。」

と述べています。

減量を急ぐあまり、性能や維持管理手法の確立していない家庭の生ごみ処理機を各家庭に斡旋し、その結果、町民の家庭の内外で衛生害虫の発生を巻き起こし、指針のいう「生活環境の保全及び公衆衛生の向上」に支障が出れば、それこそ本末転倒です。

「生活環境の保全及び公衆衛生の向上」の点で問題が無く、かつ町民の負担も誰もが無理なく協力できる程度にとどめるなかで、適正処理計画の策定をお願いします。

これから、さらに高齢化が進む一方、若い世代では夫婦共働きの家庭が増えることが想定されます。集合住宅の増加や宅地の細分化も進むかもしれません。減量と分別に協力したくても、現実には困難な家庭も増えることを想定に入れた計画とすべきです。

(2) 同指針「2 市町村の一般廃棄物処理責任の性格」「3 一般廃棄物処理

計画の策定及び適用」は、いずれも、市町村の一般廃棄物処理責任の重大さを改めて指摘したものです。

安易な民間委託は上記趣旨と相容れません。地方公共団体として、法の精神、理念を尊重した行政運営をお願いします。

3 計画の基準年について

私たちは、数字遊びや語呂合わせをしている訳ではありません。

町長は、ゼロ・ウェイスト政策を策定した際の最新のデータが18年度のものであったからと議会で答えています。そうすれば確かに半減、半減と計画としてきれいになるでしょうが、そういう話ではありません。

最近入手したごみ問題特別委員会資料によれば、町のごみ総排出量は19年度から21年度までの3年間で全く減少していません。特に、現町長になってゼロ・ウェイスト政策を全面的に打ち出した21年度において、僅かではありますが前年度より増加していることは重大です。この数字を冷静に予断なく読めば、ごみ量半減計画は成り立ちようがありません。

日常の忙しいなかで、町民が町の経費節減のために過大ともいうべき負担を強いられる計画の話です。私たち町民が納得し、これなら何とか協力できそうだという目安を得るためにも、より実態に近いデータを用いてください。

町民の間に、僅かな疑問や不安・不信があれば、計画はスムーズにいかないことを肝に銘じてください。繰り返しになりますが、今回の計画案は町民に大変な負担を強いる内容になっています。それに対して、町当局はほとんど何もしませんという計画になっています。あえて言えば、町民の尻を叩くだけが町の仕事という計画にすら見えます。そう見えると町民は協力する気になれなくなります。このことの重大性に気づいてください。

4 災害時のごみ処理対策

通り一遍の作文になっています。

老朽化した焼却炉と、あとは全て他県の民間業者まかせで、処分地を持たない我が葉山町に、一体何ができるのですか。現状を考えれば、大地震等の大規模災害時に、他団体に対して支援・協力をするなどということは絵空事です。他団体の支援ができるようなごみ処理体制を整備するというのが、町として本来目指すべき方向ではありませんか。

5 戸別収集について

まず経費の増加が心配です。町は増加させずにできると考えているようですが、現状の経費と比べて増えないからでは納得できません。現状が必ずし

も効率的でないと町民は感じています。本来、戸別方式とステーション方式とどちらが効率的にできるかをまず経費的に比較し、町民に分かりやすく説明してください。

次に、狭隘道路の問題です。他の交通の妨げになったり、あるいは他の車両のため収集に入れない等の問題が想定されます。また、収集車がすぐ近くまで入れない地区はどうするのでしょうか。作業員の負担やサービスの公平性の点から疑問があります。現在のカゴが不要になること、新たにポリバケツやネットが必要になるという不経済も発生します。

さらに、家族全員が通勤通学等で日中不在になる家庭のポリバケツが終日道端に放置されたり、風で転がったりの問題も出てきそうです。収集が終わった後いつまでも置かれているポリバケツが留守宅の証明になり、空き巣狙いの格好のターゲットにならないとも限りません。

いずれにしても問題が多すぎます。急いで着手する理由が見いだせません。

6 半減袋と有料化

有料化は国も進めており、実際実施している自治体もあります。

しかし、この政策には、税金の二重取りではないかという議論もあるようです。町長は、家庭ごみの排出抑制策の一つと考えているようですが、もっと他自治体の実施状況について情報収集し、町民に判断材料を提供すべきです。

この問題は、ごみの適正処理に当たっての町行政の責任と町民の責務を総体として議論するなかで、町民の合意を図っていくべき課題と思います。

7 計画案全体に対して

個々の計画内容とは別に、町の基本的認識に大変不安と違和感を感じますので、改めて指摘しておきます。

- (1) 市町村の廃棄物処理責任に関する町の認識と計画内容を、廃棄物処理法の目的と、環境省のごみ処理基本計画策定指針に沿って、再度点検・確認してください。
- (2) 家庭ごみの減量と分別について、他都市の事例を参考にしながら、妥当現実的な水準に設定し直し、その前提に立って町の適正処理体制を構築し直してください。
- (3) 何よりも町民の生活環境の保全と衛生の向上を基本に、現焼却炉の使用限界、家庭生ごみの減量の限界、そして他都市との連携を考えてください。
- (4) 当該計画の実現には、町民の全面的な理解と協力が不可欠です。計画策定の過程で、町民と町行政が一体となれるような空気を必ずつくってください。

い。今回の計画案は、町民生活の向上という行政の原点を忘れ、町長の選挙時のマニフェストに呪縛された内容になっています。少なくともそう感じている町民が多数存在します。こうした町民も含めて、葉山を愛する町民が心から納得し協力できる計画にしない限り、葉山のごみ処理行政は間違いなく失敗に終わります。